

小学生版

あたらしい児童書 NO. 316 2026. 1. 6

遠軽町図書館
遠軽町大通南4丁目
TEL42-3632
FAX49-2102

本が見あたらないときは、かかりの人に聞いてね。予約もできます。新しい本は他にもあります。
小初は1・2年、小中は3・4年、小上は5・6年をめやすにしてください。

『いえでします!』 浜田 桂子／作

・兄ちゃんといっしょの部屋なんて最悪。部屋でサッカーはするし、おやつは食べちゃうし。ぼくは、理想の家に家出する! 友だちにぼくが住みたい家話をすと、みんなも理想の家を話し始め…。こどもの生の気持ちに寄り添う絵本。(小初)



『リンゴちゃんのおしごと』 角野 栄子／作

・ひとりでおるすばんなんてつままない! 外に出たリンゴちゃんは塀の上でネコのビッグに出会いました。仕事に行くビッグに、リンゴちゃんはどういうお話…? 世界一わがままなお人形、リンゴちゃんのお話。(小初)



『ともだちってどんなもの? がっこうのてんこちゃん』

ほそかわ てんてん／さく

・てんみちゃんは「ともだちって、どうしたらできるの? どうしたらふやせるの?」と悩んでいます。てんこちゃんが「ともだちってどういうものなの?」と尋ねると…。子どもの心に寄りそう、ゆかいでホッとさせる5つの話を収録。(小初)



『ほねほねザウルスぼうけん大百科』 ぐるーぷ・アンモナイト／編著

・超古代ほねほねザウルス、ほねほね七不思議、異次元世界への入り口…。ほねほねザウルスの子どもたちが、ほねほねランドでどんな冒険をしてきたのかを紹介する。(小初、小中)



『ヒーロー 新型コロナVSぼくたち』 今本 政勝／作

・ヒーローになりたい小学2年生の守。新型コロナウイルス感染症の流行により休校になっていた学校が再開したけれど、運動会や学芸会が出来ず、給食も「黙食」になり…。新型コロナに負けずに成長していく子どもたちを描く。(小中)



『知ったかぶりをした日から』 かさい まり／作

・東京から、北海道の湖のある小さな町に転校してきた小学4年生の風子は、早く友だちを作りたいくて、つい知ったかぶりをしてしまう。その一言が、大変なことになって…。(小中)



『タイムトンネルを見つけた夏』 横田 明子／作

・近くの山になぞの場所があると聞いたヒロといとこのカズヤ。探検気分で行ってみると、そこは第二次世界大戦中に作られた、子どもたちのための防空壕の跡だった…。現代の子どもが戦時中の子どもの気持ちを体験する物語。(小中、小上)



『POCKET POTTERS ハリー・ポッター』 J.K.ローリング／作

・ハリー・ポッターがホグワーツに入学したのは何歳のとき？ 忍びの地図をくれたのは誰？「ハリー・ポッター」シリーズに登場するハリー・ポッターを深掘りし、イラストで紹介する。（小中、小上）



『デュポン書店の奇妙な事件』

ファブリーツィオ・アルティエーリ／作

・本はなんの役にたつ？ 1900年代初頭のパリ。通行人の財布を盗んで暮らしていたマックスは、警察から追われ、閉店した小さな本屋に逃げこむ。だが、そこには人の気配が。一方、通りの向かいには大書店が出現し…。（小中、小上）



『レーナとヒキガエルの紳士』

ミリアム・ダーマン、ニコラ・ディガール／文

・西のはての奇妙な森の主、ヒキガエルのクアクア卿の家に招待された、無口な少女レーナ。その晩、レーナがその家で発見したのは…？ ジュリア・サルダの美しい絵とともに、ちょっぴりこわい昔風の物語を堪能できる絵本。（小中、小上）



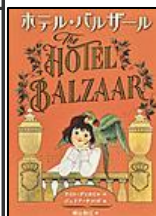
『図書だよりとひみつのノート』 赤羽 じゅんこ／作

・読みやすい「図書だより」づくりに取り組むことになった陶子。でも、親友の千絵梨の様子がおかしい。千絵梨には字を書くのが苦手な弟がいて…。多様性に向きあう小学6年生の物語。「ひと箱本屋とひみつの友だち」の姉妹本。（小上）



『ホテル・バルザール』 ケイト・ディカミロ／作

・戦地にいった父の消息がとだえ、家を追われたマルタと母は、ホテル・バルザールへやってきた。ある日、マルタはミステリアスな伯爵夫人から「7つの物語を聞かせてあげる」と言われ…。その物語に隠されたメッセージとは？（小上）



『セカイの千怪奇 5 ホピ族の予言』 木滝 りま、太田 守信／作

・母を探して、世界中の怪奇を調査している未知人とその父・豪はアリゾナ州のホピ族のもとへ。未知人はホピ族の長老から人類滅亡の救世主だと言われるが、そこへ宿敵“幻”が現れ…。「ホピ族の予言（前編）」など5話を収録。（小中、小上、中）



『少年と悪魔』 佐藤 まどか／著

・借金取りから逃げる父親といっしょに各地を転々とする一輝。中学生のはずだが、小学生のころから学校にも通えず…。日本児童文学者協会賞受賞作家が描く、居所不明児童の現実と未来。「消えた子どもたち」3部作の第1弾。（小上、中）



『しずくと祈り「人影の石」の真実』 朽木 祥／作

・広島平和記念資料館に展示されている「人影の石」。それは、石段に残された黒い人影。「人影」は誰のもので、どうしてこのような形で残ったのか。その理由と経緯をひもとく、事実に基づいた物語。（小上、中）

